

令和6年度

西都市議会文教厚生委員会

行政調査報告書

日時：令和6年11月11日（月）

～

令和6年11月13日（木）

視察先：①奈良県大和郡山市

不登校対策総合プログラムについて

②福井県永平寺町

高齢化社会における交通システムについて

本委員会は、所管事務に関する調査のため、令和6年11月11日から11月13日の間において、奈良県大和郡山市、福井県永平寺町を訪問し、本委員会の所管事務中、福祉行政及び教育行政に関する事項に関し、訪問市において説明を受け、質疑応答等を行ったので次のとおり報告する。

委員長	壺岐 秀光
副委員長	村上 修乗
委員	田爪 淑子
〃	狩野 保夫
〃	橋口 登志郎
随 行	事務局 木村 紘平

## 【奈良県大和郡山市】

■日 時 令和6年11月11日（月） 15:00～16:30

### ■調査目的

大和郡山市では、不登校状態にある市内小・中学校に在籍する児童生徒を支援するため、不登校対策総合プログラムを推進している。プログラムでは、適応指導教室「あゆみの広場」で得られた臨床の知を生かしながら柔軟な教育活動を展開することができるよう、教育課程を弾力化した学科指導教室『ASU』（不登校状態の児童生徒が、生きる希望をつなぎ、明日の世界に向かって力強く羽ばたいてほしいという願いを込めて命名〈あゆみ スクエア ユニバース＝ASU＝アス〉）を開設し令和5年度より郡山北小学校及び郡山中学校の分教室として新たに出発した。

本市でも中学校統合への準備を進めているなか、不登校についての対策を検討しておく必要があるため、大和郡山市の取り組みを本委員会として調査を行った。

### ■調査事項

不登校対策プログラムについて

### ■概 要

#### 1. 市の概要

大和郡山市は昭和29年1月1日に市政施行。奈良盆地北部に位置し、佐保川や富雄川が南流している。総面積42.69km<sup>2</sup>、人口約8万人で、奈良の県庁所在地・奈良市からのアクセスも良く、JR・近鉄電車・西名阪自動車道も通っているので、奈良県内の交通の要所になっている。市では、江戸時代より武士の副業として始められた金魚の養殖が大変に盛んである。近年は都市化に伴う水質汚濁等の環境悪化などで生産量は減少したものの、養殖農家約50戸、養殖面積約60ヘクタールで、年間金魚約6,000万匹が販売されている。また、金魚品評会が毎年4月上旬桜花満開の頃、金魚にゆかりの深い柳澤神社で行われ、市民はもちろん、近郊の愛好家にも好評を博している。市内には池が数多く見られるが、これはため池や金魚の養殖池として用いられていたものである。

「平和のシンボル、金魚が泳ぐ城下町」を掲げ、毎年8月には全国金魚すくい選手権大会を開催している。郡山城跡では、これまで実施してきた郡山城天守台整備や城下町アプリケーションの連携によって観光振興や産業振興を図るとともに、国史跡指定や歴史公園としての整備事業に取り組んでいる。また、無名橋名付け親プロジェクト、リノベーションまちづくりなど、「シビックプライド（まちに対する市民の誇り）」を大切にしまちづくりを目指している。

## 2. 調査内容

### 不登校対策プログラムについて

#### ●ASUについて

##### ○名称

<あゆみ スクエア ユニバース=ASU=アス>

学科指導教室『ASU』（不登校状態の児童生徒が、生きる希望をつなぎ、明日の世界に向かって力強く羽ばたいてほしいという願いを込めて命名された。

##### ○学校概要

管理機関：大和郡山市教育委員会

所在地：奈良県大和郡山市植槻町3番4号

本校：大和郡山市立郡山北小学校・郡山中学校

開校時期：令和5年4月（平成16年度に学科指導教室「ASU」として開設）

##### ○対象児童生徒

- ・大和郡山市在住の小学校第一学年から中学校第三学年までの児童生徒
- ・病気や経済的理由を除く年間30日以上欠席が続いている者
- ・本人に登校意欲があり、保護者の理解がある者

##### <入室までの流れ>

施設見学、通信相談、保護者・生徒との面談の後認定という流れ。

面談を通して元の学校に戻る子もおり、ASUに入りたいとなった場合にもまずは適応指導教室のあゆみルームからスタートする。家を出られなかった子をあゆみルームで初めの1歩を踏み出すという形にしている。そこから、1対1→少人数と慣れてもらい、集団に入りたい、勉強もしてみたいという子がASUに入るという流れになっている。この慣らしの期間も個人差があり、短い子で1、2か月、長い子で1、2年通ってそこからやっと勉強したいという流れになる子もいる。また、勉強は難しく卒業まであゆみルームに在籍する子もいる。

##### ○在籍児童生徒数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
小学生	0	0	0	0	0	0	0
中学生	0	1	7				8

○教職員配置状況

	職名	備考
1	小学校校長	郡山北小学校
2	中学校校長	郡山中学校
3	小学校教頭	郡山北小学校教頭
4	中学校教頭	郡山中学校教頭
5	県費主任教諭	
6	県費教諭	
7	県費常勤講師	
8	県費常勤講師	
9	市費常勤講師	養護教諭
10 ～ 16	市費非常勤講師	
17	市費主任スクールカウンセラー	
18	市費スクールカウンセラー	
19	市費スクールカウンセラー	

スクールカウンセラーが常駐するなど、子供たちの不安解消のために手厚い職員配置体制となっている。

○教室配置図及び外観



写真：ASUホームページより

○校児表（例：中学3年生）

		月	火	水	木	金
9：00～9：20	ウォームアップ					
9：20～9：30	朝の会					
9：30～10：20	1時間目	英語	社会	社会	数学	理科
10：30～11：20	2時間目	理科	数学	英語	国語	社会
11：30～12：20	3時間目	スポーツ	チャレンジ	チャレンジ	いきいき 音楽	チャレンジ
12：20～13：00	昼食・昼休み					
13：00～14：30	4・5時間目	ASUタイム	いきいき 美術	わくわく 家庭科	わくわく 技術	スポーツ
14：30～14：40	清掃					
14：40～15：00	クールダウン					
15：00	下校					

- スポーツタイム・・・身体運動によるストレス解消、集団活動を通して社会性を身に付ける目的でスポーツ全般を中心とした活動を行う。
- わくわくタイム・・・体験的な活動や、実技科目の学習内容を中心に行い、生活の基礎となる力の育成を目指す。
- いきいきタイム・・・音楽や美術（図画工作）などの創作活動や表現活動を行い、豊かな感性の育成を目指す。
- チャレンジタイム・・・計算問題や漢字等、基礎的な学習に取り組みながら、児童生徒自らが計画を立てることで意欲的な学習を目指す。
- あゆみタイム・・・自己を見つめる時間として児童生徒が自由に語り合うことを通して、自己・他者理解を深める。

○教育課程

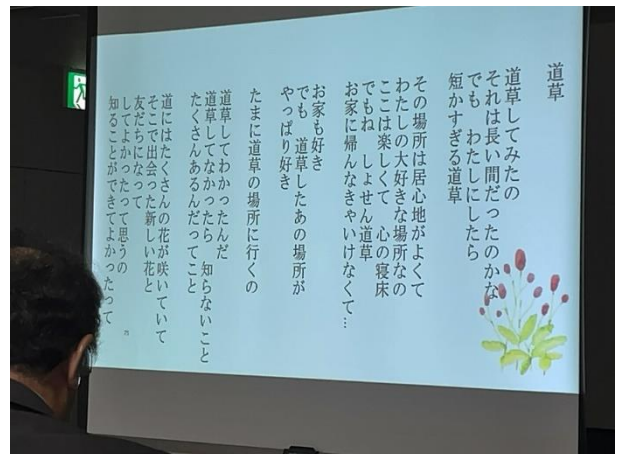
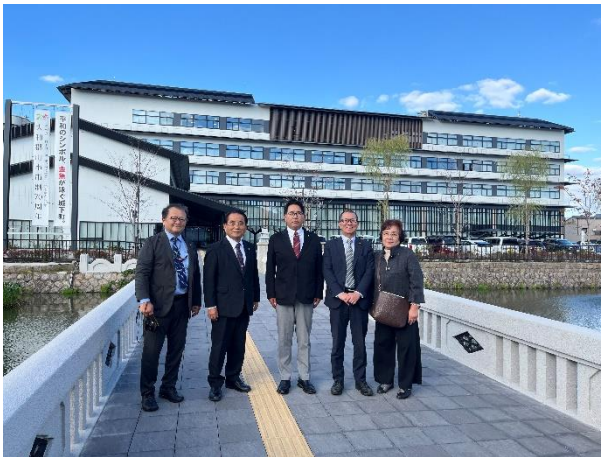
不登校児童生徒等の実態に配慮した工夫がなされている。

- ・通いやすい登下校時刻を設定
- ・1人1台端末のAIドリル等を活用した学習機会の保障
- ・小学校・中学校の垣根を越えて、協力して取り組む課題を設定
- ・国語、数学（算数）については習熟度別のクラス編成を行う。
- ・登校できない児童生徒への支援として、ICTの活用や心理学専攻の大学院生等の家庭訪問等を行う。
- ・市内の保護者等を交えた、「不登校を語るフォーラム」を開催する。

## 教育課程表

教育課程表														※灰文字は標準授業時数					
区分	小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1		中2		中3		
各教科	国	136	306	140	315	140	245	140	245	140	175	140	175	70	140	70	140	70	105
	社	-	-	-	-	70	70	70	90	70	100	70	105	70	105	70	105	70	140
	算・数	102	136	105	175	105	175	105	175	105	175	105	175	70	140	70	105	70	140
	生・理	170	102	175	105	105	90	105	105	105	105	105	105	70	105	70	140	70	140
	音		68		70		60		60		50		50		45		35		35
	図・美		68		70		60		60		50		50		45		35		35
	体・保		102		105		105		105		90		90		105		105		105
	家・技	-	-	-	-	-	-	-	-		60		55		70		70		35
	外・英	-	-	-	-	-	-	-	-		70		70	70	140	70	140	70	140
	外活	-	-	-	-		35		35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
道徳		34		35		35		35		35		35		35		35		35	
総合	-	-	-	-		70		70		70		70		50		70		70	
特活		34		35		35		35		35		35		35		35		35	
スポーツタイム	102		105		105		105		105		105		105		105		105		
わくわくタイム	50		53		53		53		53		53		140		140		140		
いきいきタイム	120		122		122		122		122		122		105		105		105		
チャレンジタイム	102		105		105		105		105		105		105		105		105		
あゆみタイム	68	-	70	-	70	-	70	-	70	-	70	-	70	-	70	-	70	-	
合計	850	850	875	910	875	980	875	1015	875	1015	875	1015	875	1015	875	1015	875	1015	

## 研修の様子



### 3. まとめ

○不登校問題は、どこでも問題になっていることであるが、大和郡山市の調査を通じ、特に教訓だったのは不登校児童生徒が社会的な自立を目指せるよう新しい学びのスタイル「不登校のこどもたちが安心して通える心の居場所づくり、弾力的な教育課程の編成」による取り組みがなされ、学びの場所が、市民生活に溶け込みやすい開放的場所に設置されていることであった。小中学校の不登校問題は令和6年11月1日の新聞にて「全国不登校最多34万人・国公立小中生 本県は2691人」と報道されるなど大きな社会問題となっている。本市も例外ではなく、特に令和8年に西都中学校に統合されることから喫緊の課題である。本市教育委員会においてもこれから先進地の取り組みに学ぶ必要があると感じた。

○通常学校に進学できない児童・生徒に対して徹底多個別指導ともいえる教育指導を行っていること、大人になったときに困ることなく生活できる術を通常教育と違った方法で指導されていること、ASUを卒業した生徒が普通に進学や就職が来ていること、ASUに入学す際に保護者の理解を得ているが、保護者からは感謝の言葉が多数であることなどに感心した。最近のこどもを取り巻く社会環境は本来の学習に取り組むことができない事情が多数あると考える、その子供たちの救済措置としては大変有効な取り組みであると思う。昨今では学びの速度や方法も多様化していると感じる。個性に学び方があっても良いと思うし本人が大人になった時社会で生きていくことが大事である。そのための学校ではないかと感じた。

○令和5年度現在、全国24校（公立14校、私立10校）の設置「不登校児童生徒支援教育特区」の1つASUは、個々に応じた柔軟な編成のもと「個別支援・少人数活動・体験活動」を通じ、段階別に学習機会が提供されている。またICTなどを活用した支援や美術・技術・家庭科といった事業系の教育カリキュラムに文化祭の主催やまちの清掃ボランティアなど実社会と直結した実践的な活動体験があり情操教育を含め弾力的な教育が育まれており、本市での新たな不登校対策事業を展開するにあたり一助となった。

○不登校になる生徒は様々である。その中でも集団生活を苦手とする生徒も存在する。ASUに代わる学習施設が出来れば不登校生徒の義務教育、進学の問題が解消出来ると考える。また新中学校設立に伴い、今まで西都市内に在籍していた教師の転任先の選択肢が増える点に関して一つの解消が出来るのではと考えられる。

○このASUという教育の最後の砦があることにより、教員も安心感を得ているようで、通常学級においても良い効果を得ていることに感心した。西都市は令和8年度に西都中学校として、市内中学校が統合する。学校環境が変わり、人間関係に戸惑い、授業についていけなくなる生徒が出ることは、予想しておく必要がある。その子たちを救う場所として、このASUの考え方をとりいれた不登校対策にさらに取り組むべきだと考える。西都市でも不登校対策には取り組んでいるが、教育環境特に場所においては、今の場所は不適合だと考える。大和郡山市においても、場所については考察し、適地を選んでいるようである。つまり、教育内容と共に場所も重要な課題と考える。市内中学校統合まで2年間の準備期間がある、不登校対策においても、将来を想像してハード、ソフトともに準備する期間として考えていきたい。

## 【福井県永平寺町】

■日 時 令和6年11月12日（火） 14:00～15:30

永平寺町では、経済産業省・国土交通省が2016年度に開始した自動走行実証事業の実証地域に指定され、全国に先駆けて自動運転の実証実験を行ってきている。2020年度には国内初となるレベル3による無人の自動運転サービスを開始し、2023年度にも国内初のレベル4自動運転移動サービスを開始している。これらの取り組みを学ぶことで、今後ますます高齢化していく本市の交通システムの検討において参考になるものであるため、本委員会として調査を行った。

### ■調査事項

高齢化社会における交通システムについて

### ■概 要

#### 1. 市の概要

永平寺町は福井県の北部に位置し、平成18年に松岡町、上志比村、永平寺町の合併により誕生。

県都福井市に隣接する永平寺町は、県内最大の河川九頭竜川が中央を流れ、町内には九頭竜川に平行して国道416号線とえちぜん鉄道（勝山永平寺線）が走っている。西部には北陸自動車道が南北に通っており、福井北ICが近くに位置している。大本山永平寺や吉峰寺、松岡古墳群など多くの歴史文化資源が集積しており、また、福井大学医学部、福井県立大学など学術研究機関なども立地している。

#### 2. 調査内容

##### ○永平寺町の取り組みの経緯

2016年	国の自動走行実証実験開始
2018年4月	【世界初】1人の遠隔運転手が2台を運用する公道実証
2020年12月	【国内初・レベル2】1人の遠隔運転手が3台を運用する移動サービスの開始
2021年3月	【国内初・レベル3】遠隔型自動運転システムによる移動サービスの開始
2023年3月	【国内初・中部運輸局】走行環境条件付与
2023年4月	【国内初】自家用有償旅客運送登録完了
2023年5月	【国内初】特定自動運行許可

国の実証事業に全国33団体が応募し、永平寺町を含め4か所が実証地域に指定された。全国に先駆けて自動運転の実証実験を行ってきている。

地域の課題としては高齢化による移動手段不足、高齢ドライバーによる事故の増加、公共交通のドライバ不足などがあつた。自動運転では1人のドライバが複数の車両を管理することができるためドライバ不足の解消につながるという期待もある。

## ○運行について

運行日は土、日、祝日で、運行時間は10時から15時まで、毎時00分、20分、40分に上り下り同時に出発している。

12時～13時が休み。

運賃は大人100円、中学生以下50円、未就学児は無料。

運行中は監視室に特定自動運行主任者が1名、車側でトラブルがあった場合に現場にかける業務実施者1名の2名が常駐して運行を行っている。

特定自動運転主任者は特定自動運行許可により3台まで監視することが可能となっている。

自家用有償旅客運送許可については永平寺町が事業者という形で届け出がしてあり、株式会社ZENコネクトが運行管理の委託を受けて委託をしているという形になっている。

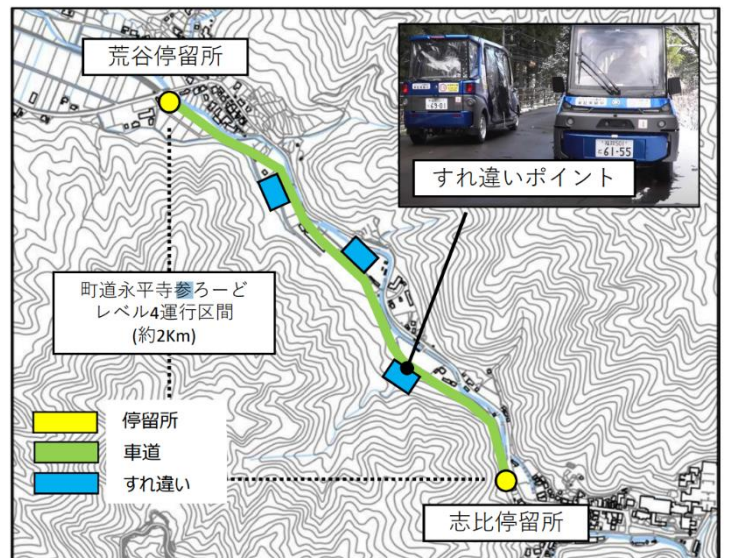
※株式会社ZENコネクト・・・自動運転実証実験を受けるために立ち上がった会社。実証実験をこれまで行って経験を積んで得た知識や技術を生かして運用管理を行っている。

## ○運行経路、車両について

### 運行経路

鉄道配線跡を自転車歩行者専用道路として改修した町道「永平寺参ろ一ど」の南側2kmを走行。

自転車歩行者専用道路の運行許可をもらって運行しているので、歩行者もいる。

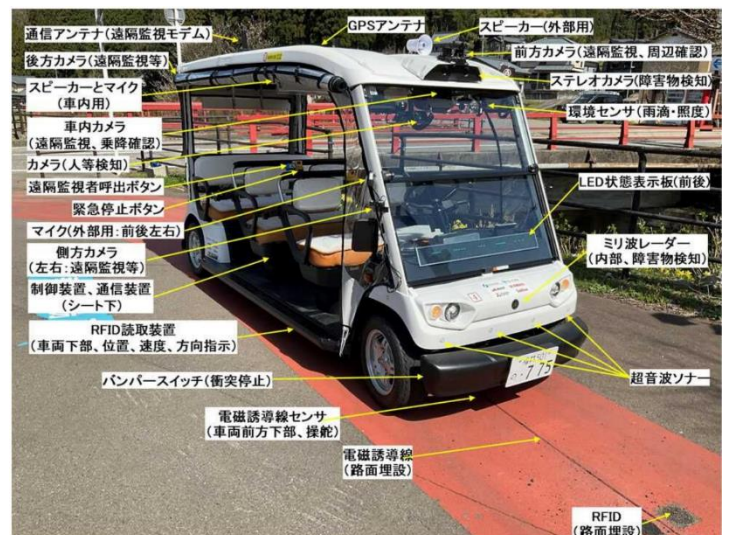


### 車両

各種センサーやカメラ、制御装置により安全な運行をおこなっている。

センサーに異常が検知された場合、監視室モニター上で確認ができる。

また、電磁誘導線方式で運行しているため、車は道路に埋められた誘導線上しか運行することが出来ず、進路を変えることは出来ない。誘導線は1メートルあたり3000円で引ける安価なものである。



### ○通信回線について

通信が途切れないようにドコモ、AU、ソフトバンク3つのキャリアを契約している。そのため通信料が非常に高額で、しっかり確認する必要がある場合には常時映像、特に確認の必要がない場合には静止画のコマ送りにより通信料を下げる工夫が必要である。

### ○補助金について

現在まだ実証実験も並行して行っている最中であり、事業主体も永平寺町となっている。その中で土日の運行というのは永平寺町の事業であり、その分の委託料は発生している。しかし自動運転としての委託料は令和5年度から出していない。

### ○車の整備等について

電気、センサー関係もあるので非常に難しい整備とのこと。ただし、車検は地元の業者に資格を取ってもらい、地元で車検を行っている。センサー類については作り上げた業者に来てもらっている。

### 研修の様子



## ■まとめ

国内初のレベル4（運転者がいない、完全自動運転）としてサービスされているものであり、運行路は京福電気鉄道永平寺線の廃止区間を活用したもので、それ以前は自転車道であったとのこと。永平寺の自動運転は過疎地での運用を想定したモデルケースである。衛星通信によるものでなく、道路上に埋設された電磁誘導線において運行が行われていた。西都市においても、実証実験が始まった自動運転移動サービスなのでとても興味深かった。レベル4を電磁誘導線で行うなら、妻線跡地を利用したものが可能ではないかと思う。妻線廃止の際、条件として（何らかの方法が開発されたり、時代環境が変わったり）再開できるように、線路跡は保存すると決めた。ならばこの妻線跡を利用して、自動運転設置も可能だと考える。これについては、西都市と宮崎市とで検討すべき内容である。西都市で実験が行われているものと比較すると、ハード等はそれが可能となった場合西都で行われているものの方が将来性があると考え。技術的には過渡期にあるが未来を考えたときに、絶対に必要なシステムである。実証実験を取り組み、それを通常走行に持っていき、免許返納問題、買い物難民問題、移住定住策の解決策の一つの施策として取り組んでいきたいと考える。

免許返納した高齢者を対象とした利用者を優先させて安い運賃で利用することや西都原古墳群への観光客を対象にして運行出来れば収益を得る形も考えられる。

視察では永平寺までの片道を乗車したが、低速運転で一般の車両は通行しないため、特定の目的（観光）のもとでの運行であるとの印象を受けた。レベル4で実証実験中であり、コントロール室等の人の配置や経費負担等を考えると検討すべき課題があると感じた。高齢者福祉対策の立場から福井県永平寺町で視察をおこなったが、将来を見据え、自動運転の実証実験は必要であると考えつつも、コントロール室の設置、人員の配置、車両の管理、本市の場合は一般道路を通行することによる影響、実証実験後の本市財政負担を考えると検討すべき課題、クリアすべき課題等が多くあるように感じた。